

令和3年度厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

Ⅲ-2. 短期サポートグループワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でも地域がん診療連携拠点病院の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、「医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」が求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されているがんサロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務するがん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートグループ運営の手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」を開発し、2021年度に実施した。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目的とした。

B. 経過

本年度は、11月3日（東京とオンライン）と2月11日（オンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事

者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、オンライン研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的变化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートグループ運営の手引き」「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

C. 結果

事前登録者は、11月95名、2月93名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスター分析（ward法）を行い、目標レベル分けを行ったところ、11月の研修会でレベル設定を行ったものは82名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」34名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」35名、レベルⅢ：「エキスパート」13名であった。2月の研修会では、79名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」37名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」24名、レベルⅢ：「エキスパート」18名であった。2020年度の研修会と比較して、11月の研修会の参加者は、ファシリテーション、ロールモデルの提供、情緒的サポートピア・サポーターとの協働の平均点は低く、多様なニーズ院内への協力要請に関する平均点は高い傾向にあった。さらに11月の研修会と2月の研修会を比較すると、ロールモデルの提供、多様なニーズへの対応、ピア・サポーターとの協働、院内の協力の平均点は低いという特徴があった。

事後評価アンケートの結果からは、11月と2月の研修会ともに、サポートグループ運営に関する知識と態度に関するすべての評価項目で有意に改善することが明らかとなった。このうち効果量が高かった項目は、「ファシリテーターの役割を理解している」「医療者とピア・サポーターが協働する方法について理解している」「サポートグループを自信を持って運営できる」であった。これらの結果から本研修の目的は十分に達成されたと言える。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応について課題を感じていることが分かった。

研修全体についての自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設・他県の取り組みを聞く機会、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーション、研修の構成、開催形式、ピア・サポートの必要性の理解であった。一方で、改善点としては、オンライン開催であること、研修時間の長さ、開催日、ロールプレイの長さなどであった。

D. 考察

「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」は昨年度から開催し、今年度までに合計3回開催し、244名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国のがん診療拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者の対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

事前アンケート回答状況

2021年10月22日17時〆切時点
81/88名提出 92%回収

受講者の背景 (n=81)

1. 所属：

所属	人数
がん相談支援センター	29
地域連携・医療相談室	17
総合患者支援センター	9
看護部	9
地域統括がん相談支援センター	7
外来	6
緩和ケアセンター	2
がんセンター	1
心療内科・精神科	1

2. 職種：

職種	名
看護師・保健師	
がん看護専門看護師	14
緩和ケア認定看護師	5
がん性疼痛認定看護師	2
がん化学療法認定看護師	2
乳癌看護認定看護師	3
がん放射線療法認定看護師	1
MSW	22
心理職	4
事務員	2
医師	1
ピア相談員	1
認定がん専門相談員	1

図表1 研修会受講者の背景(2021年11月3日)

3. がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	31	担当でない	7
専任	20	その他	6
兼任	17		

サポートグループの開催内容 (n=119)

1. 開催頻度

開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
2週に1回以上	7	年1～4回	35
毎月	53	記載なし	3
隔月	21		

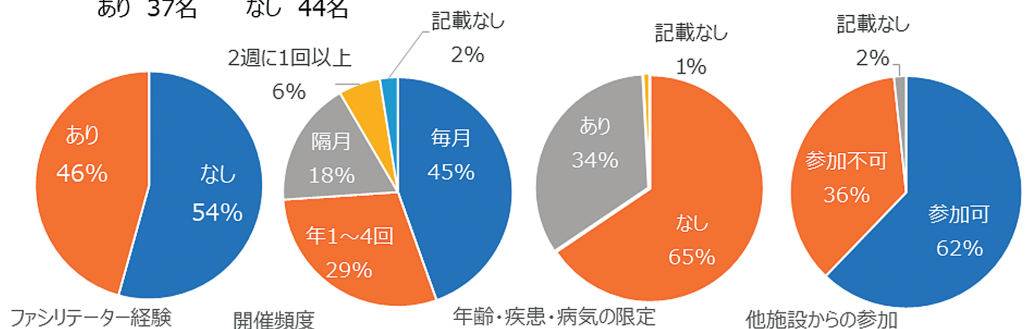
受講者の経験 (n=81)

1. 臨床経験 18.2年

2. がん相談経験 7.5年

3. サポートグループのファシリテーター経験

あり 37名 なし 44名



図表2 研修会受講者の背景(2021年11月3日)

4. 1施設の開催プログラム数 (n=81)

1グループ 58名 2グループ 13名
3グループ 5名 4グループ 5名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

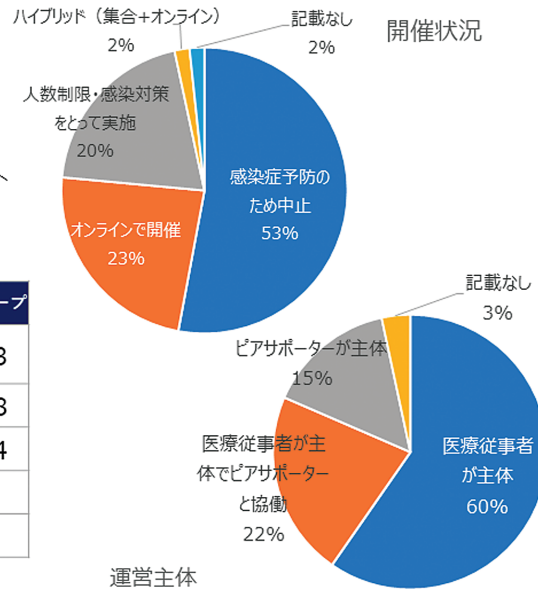
5. 平均参加人数 11.2名

6. コロナ禍での開催状況 (n=119)

開催状況	グループ
感染症予防のため中止した状態である ※うち再開検討中：9グループ	63
オンラインで開催している	28
人数制限・感染対策をとって実施している	24
ハイブリッド（集合+オンライン）	2
記載なし	2

7. 運営主体 (n=119)

運営主体	グループ
医療従事者が主体で開催(企画・運営)している	71
医療従事者が主体でピアサポーターと協働して開催(企画・運営)している	26
ピアサポーターが主体で開催(企画・運営)している	18
記載なし	4



図表3 研修会受講者の背景（2021年11月3日）

事前アンケート回答状況

1月31日時点
81/83名提出 97.6%回収

受講者の背景 (n=83)

1. 所属：

所属	人数
がん相談支援センター	22
地域連携・医療相談室	19
患者総合支援センター	8
看護部	8
がん診療サポートセンター	5
外来	5
緩和ケアセンター/PCU	4
病棟	3
心理部門	2
診療科	2
居宅介護支援事業所	1
事務部門	1
大学教員	1
回答なし	2

2. 職種：

職種	名
看護師・保健師・助産師	46
がん看護専門看護師	10
緩和ケア認定看護師	9
がん性疼痛認定看護師	5
がん化学療法認定看護師	3
MSW	32
心理職	4
医師	2
事務員	1

※複数資格保持者をダブルカウント
(MSW・心理士、看護師・MSW)

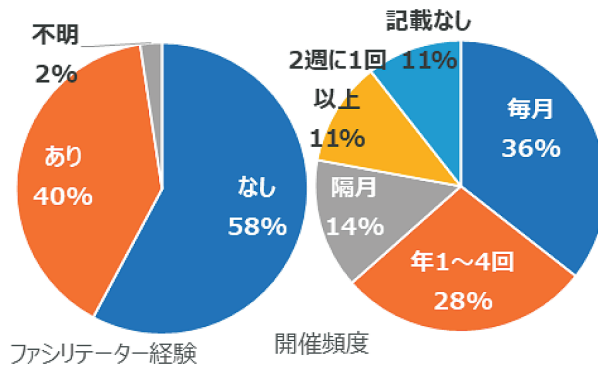
図表4 研修会受講者の背景（2022年2月11日）

3. がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	20	兼任	28
専任	19	担当でない	16

受講者の経験 (n=83)

1. 臨床経験 20.8年
2. がん相談経験 7.3年
3. サポートグループのファシリテーター経験
あり 33名 なし 48名 回答なし 2名



サポートグループの開催内容 (n=104)

※サポートグループの記載なし9名+未提出2名を含む

1. 開催頻度

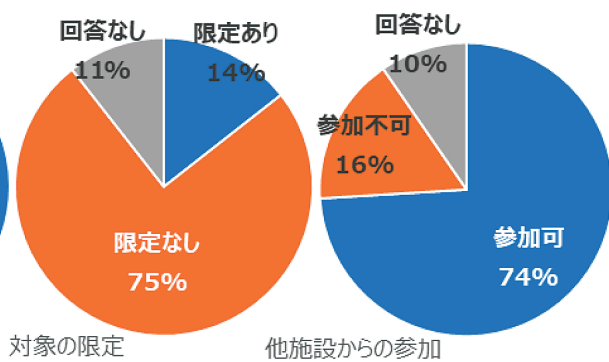
開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
2週に1回以上	12	年1~4回	29
毎月	37	記載なし	11
隔月	15		

2. 年齢層や疾患・病気の限定

あり 15グループ なし 78グループ 記載なし11

3. 他施設からの参加

可 77グループ 不可 17グループ 記載なし10



図表5 研修会受講者の背景 (2022年2月11日)

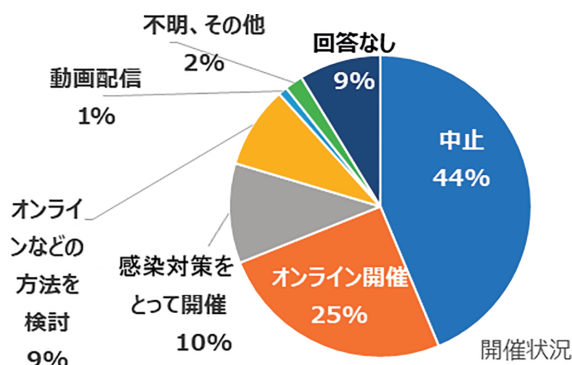
4. 1施設の開催プログラム数 (n=83)

1グループ 61名 2グループ 7名
3グループ 4名 4グループ 2名
回答なし 9名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数 8.2名

6. コロナ禍での開催状況 (n=104)



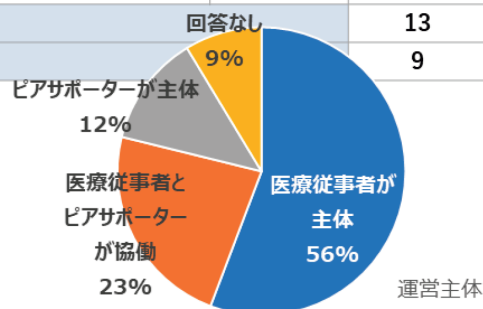
コロナ禍の開催状況	グループ
新型コロナウイルス感染症予防のため中止した状態である	45
上記のためオンライン開催で実施している	26
上記のため人数制限、3密を避けるなど感染対策をとって実施(もしくは再開)している	11
上記のためオンライン開催などの方法を検討している	9
上記のためミニ講座の動画配信をしている	1
不明、その他	2
回答なし	9

※コロナ禍が続く中の工夫として、オンライン開催に加えニュースレターを発行するなど、IT弱者への配慮をする会もあった

図表6 研修会受講者の背景 (2022年2月11日)

7. 運営主体と開催内容 (n=104)

運営主体と開催内容 (各上位3位まで)	グループ
医療従事者が主体で開催	
講演会・セミナー (がん教室等)、患者交流会 (家族含む)	26
患者交流会 (家族の参加も含む)	14
講演会・セミナー (がん教室等)、患者交流会 (家族含む)、テーマを決めた体験共有やディスカッション	6
医療従事者が主体でピアサポーターと共同で開催	
患者交流会 (家族の参加も含む)	8
患者交流会 (家族の参加も含む)、医療従事者によるセミナーとピアサポーターによる体験共有を行う会	6
医療従事者によるセミナーとピアサポーターによる体験共有を行う会	5
ピアサポーターが主体で開催	13
回答なし	9



図表7 サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果

2021年11月3日開催

レベル	Cluster	人数	特徴
I 34名	2	12	ビギナー（院内以外課題あり）
	5	22	モデル、ニーズ、ピア、院内に課題あり
II 35名	1	14	安全、情緒、モデル、ニーズ、院内に課題あり
	3	21	ピアに課題あり
III 13名	4	13	エキスパート

2022年2月11日開催

レベル	Cluster	人数	特徴
I 37名	5	14	総じて得点が低い（レベル評価の無記入者含む）
	2	23	5よりも全体の得点が高い
II 24名	4	14	5よりも安全、情緒的サポート、ロールモデル高め
	3	10	4より多様なニーズ、院内のサポート高め、1よりピア低い
III 18名	1	18	総じて得点が高い

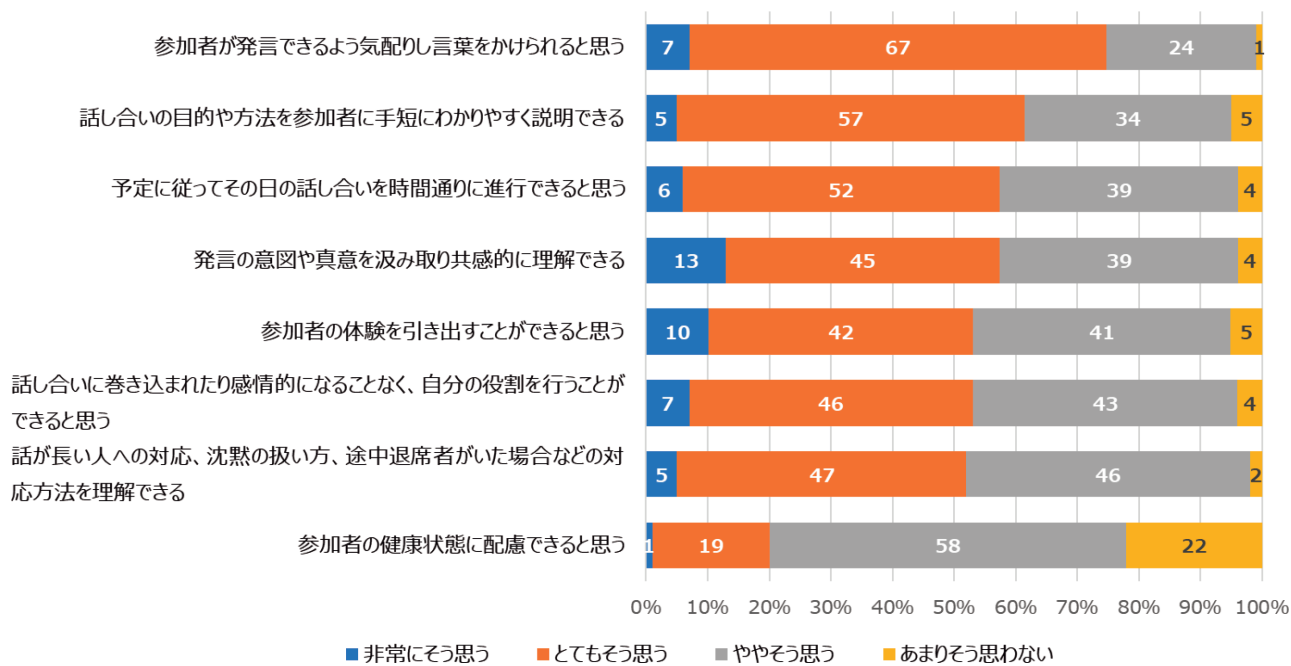
図表8 サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果

2021年11月3日開催 (n=82)	研修前		研修後		t値 (df=81)	p※	d 効果量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
サポートグループの必要性を理解している	4.00	0.75	4.55	0.57	-6.31	0.00	0.73
サポートグループの効果を理解している	3.80	0.78	4.55	0.52	-8.13	0.00	0.96
ファシリテーターの役割を理解している	3.35	0.74	4.46	0.53	-11.13	0.00	1.49
ピアサポーターが参加することの重要性を理解している	3.89	0.83	4.48	0.53	-6.27	0.00	0.70
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	3.82	0.88	4.30	0.68	-6.25	0.00	0.56
医療者とピアサポーターが協働する方法について理解している	2.98	0.85	4.12	0.69	-11.15	0.00	1.36
自施設でピアサポーターと積極的に協働したいと思う	3.78	0.88	4.23	0.79	-4.82	0.00	0.52
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	4.01	0.81	4.38	0.68	-4.90	0.00	0.45
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.73	0.94	4.27	0.70	-5.93	0.00	0.57
サポートグループを自信を持って運営できる	2.39	0.86	3.41	0.83	-9.98	0.00	1.20

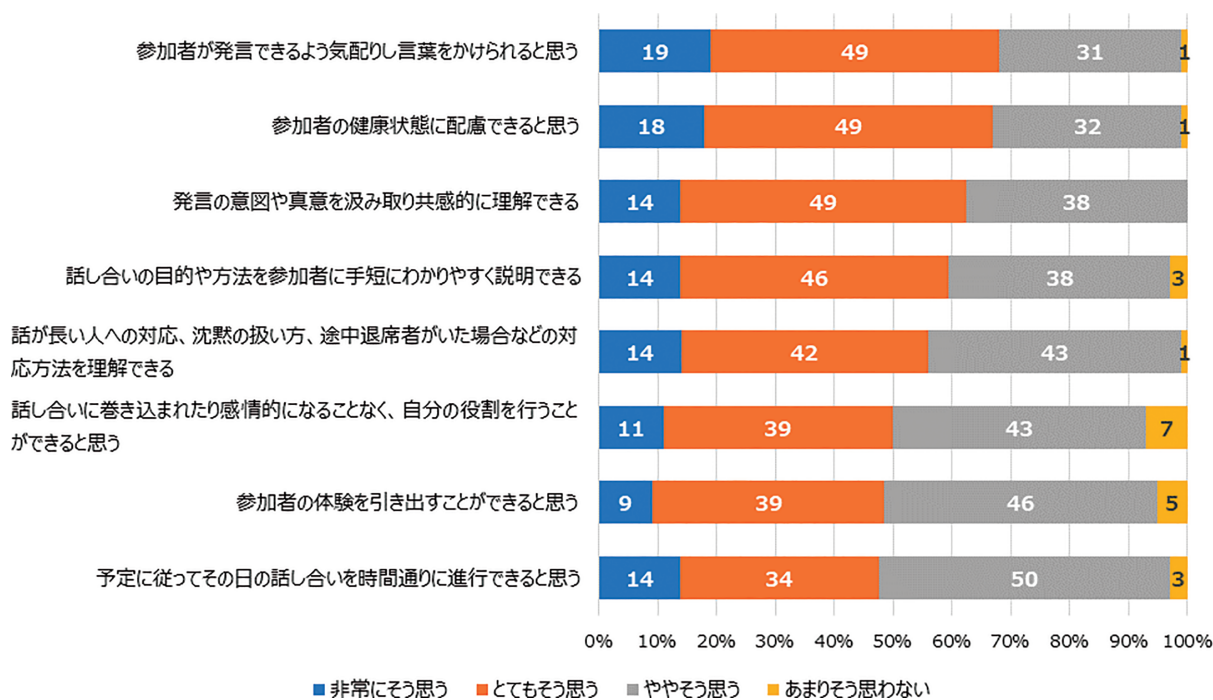
2022年2月11日開催 (n=74)	研修前		研修後		t値 (df=73)	p※	d 効果量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差			
サポートグループの必要性を理解している	3.91	0.85	4.65	0.48	-8.04	.000	0.88
サポートグループの効果を理解している	3.68	0.83	4.48	0.56	-7.84	.000	0.96
ファシリテーターの役割を理解している	3.31	0.86	4.53	0.58	-13.10	.000	1.42
ピアサポーターが参加することの重要性を理解している	3.86	0.82	4.59	0.52	-7.86	.000	0.89
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	3.86	0.75	4.30	0.74	-4.49	.000	0.58
医療者とピアサポーターが協働する方法について理解している	2.93	0.80	4.20	0.64	-12.87	.000	1.59
自施設でピアサポーターと積極的に協働したいと思う	3.74	0.72	4.22	0.63	-5.34	.000	0.65
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	3.95	0.70	4.30	0.66	-4.04	.000	0.50
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.62	0.73	4.03	0.78	-3.73	.000	0.55
サポートグループを自信を持って運営できる	2.30	0.74	3.30	0.75	-10.39	.000	1.36

※Paired-samples t-test

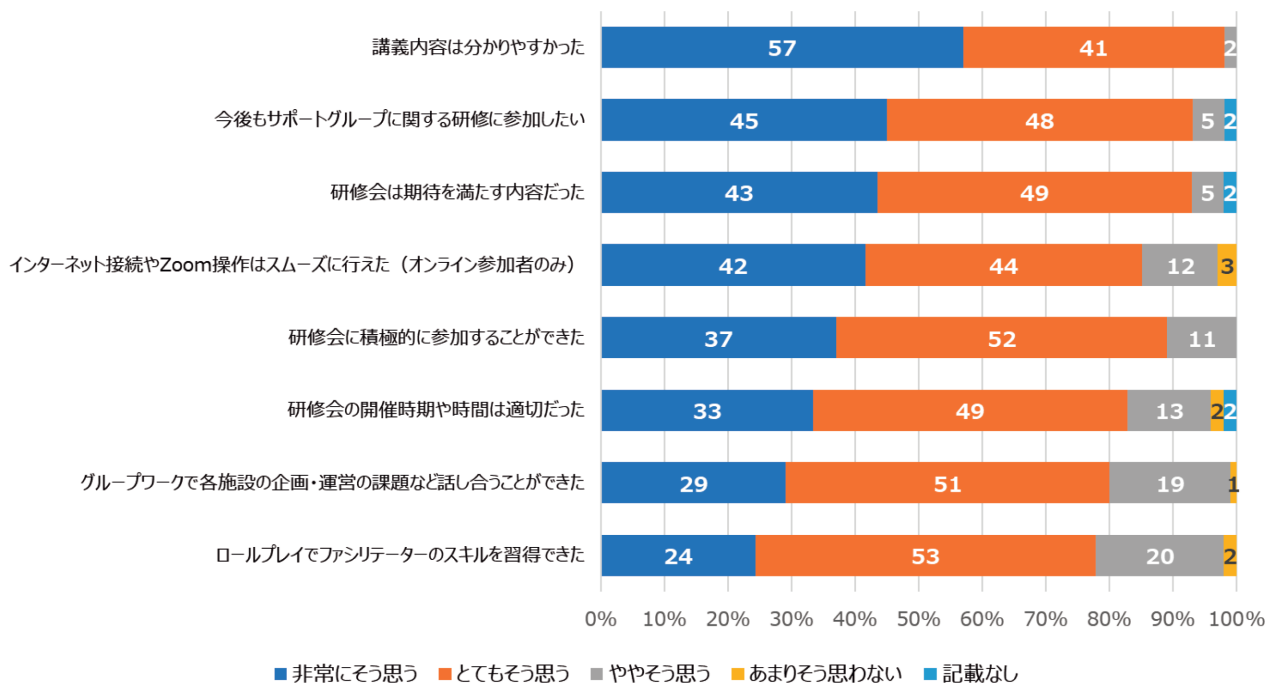
図表9 サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果



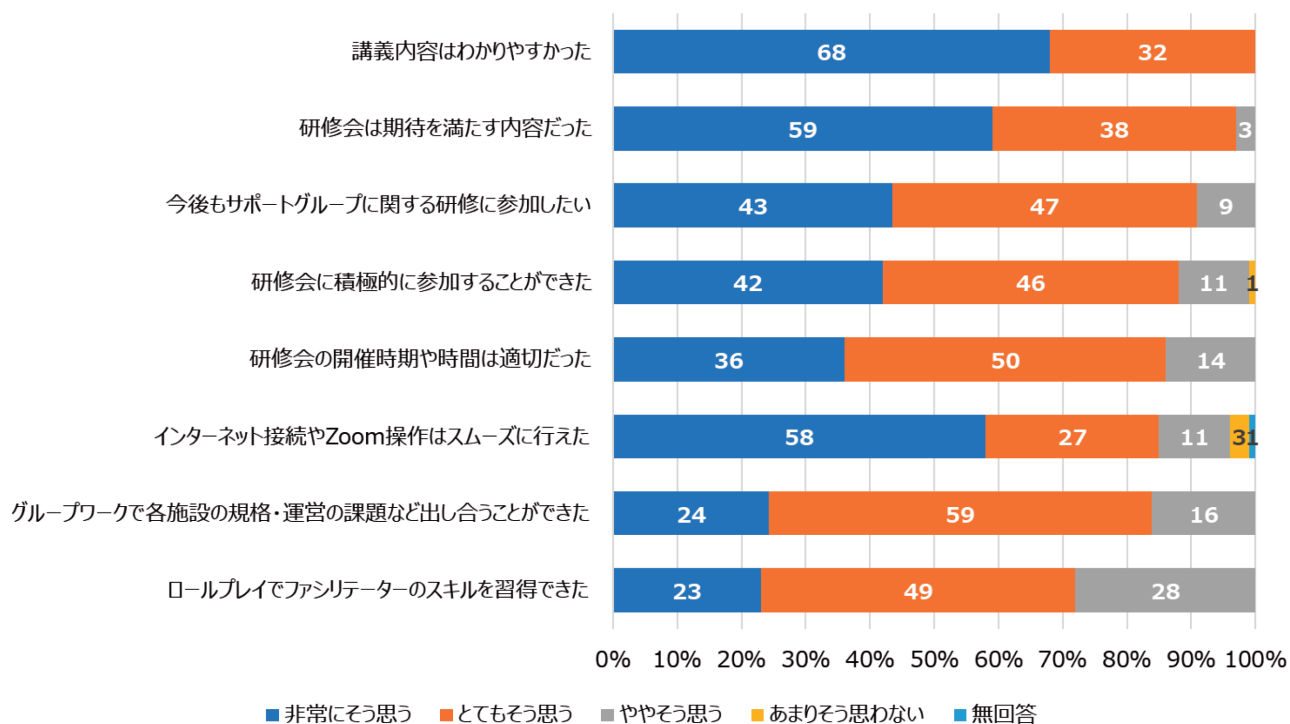
図表 10 ファシリテーションの評価 (2021 年 11 月 3 日)



図表 11 ファシリテーションの評価 (2022 年 2 月 11 日)



図表 12 研修会全体の評価（2021 年 11 月 3 日）



図表 13 研修会全体の評価（2022 年 2 月 11 日）

令和3年度厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業
短期サポートグループワーキンググループ 会議報告

第1回 WG 会議

日時：令和3年6月8日

- 議事：(1) 事業内容の確認
(2) ワーキングの方向性の検討
(3) 今後の予定の確認

第2回 WG 会議

日時：令和3年6月26日

- 議事：(1) 研修会概要決定（研修会日時、それに向けたスケジュール）
(2) 役割分担の確認

第3回 WG 会議

日時：令和3年9月14日

- 議事：(1) 研修会準備状況の共有、スケジュールの確認
(2) 研修会受講者（令和2年2月11日実施）半年後追跡アンケートの結果共有
(3) オンラインサポートグループ実施の際の留意点についての検討

第4回 WG 会議

日時：令和3年10月25日

- 議事：11月3日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第5回 WG 会議

日時：令和4年1月14日

- 議事：2月11日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第6回 WG 会議（予定）

日時：令和4年3月

- 議事：研修会反省、年度内の総括

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会（令和3年度第1回）

日時：令和3年11月2日（前日打合せ 18:00～19:00）

令和3年11月3日

（直前打合せ 8:30～9:00、研修会 10:00～17:00、反省会 17:00～18:00）

会場（配信拠点）：富士ソフトアキバプラザ（東京都千代田区神田練堀町3）

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会（令和3年度第2回）

日時：令和4年2月10日（前日打合せ 18:00～19:00）

令和4年2月11日

（直前打合せ 8:30～9:00、研修会 10:00～17:00、反省会 17:00～18:00）

会場（配信拠点）：AP 大阪茶屋町（大阪府大阪市北区茶屋町1-27）